

京釜鐵道株式會社發起人ニ對

スル命令書

第三條 發起人總員ハ少クトモ第一回
募集額ニ對スル株金ノ十分ノ二ヲ引
受クヘシ

秘

總理大臣

書信部長

新報第一三三七號

日韓間海底電信線賣收方

大北會社ニ交渉ノ件

大北會社所有釜山海底線ハ我日韓

間電信經營上ニ少カラサル障害トナル

ヲ以テ若シ會社ニ於テ之カ賣却ヲ承

認セハ頗ル好都合ナリト思料シ通信

局長ヲシテ同社ニ内議セシメタルニ同社

ハ右賣却ヲ以テ中立違犯ナリトシ之

ヲ拒否シタルモ現時我日韓間通信ノ

情況ヲ諒トシ我政府ノ之ニ處スル必要

手段ハ一時的ノモノトシテ認容スヘキコトヲ

暗示シ来リ候本件ハ我軍用線ニモ

十四

至大ノ關係ヲ有スル義ニ付往復文書
相添此段報告ス

明治三十七年十二月二十三日

通信大臣大浦篤武



内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

通信會館印刷局活版工務印刷

電報譯文(以下)

明治卅七年九月二十日發送

左ノ事ヲコンモドールスエソソソ氏ハ傳達相成度候
日韓間ノ關係上當主管局ニ於テハ釜山海底線ノ責
社ニ屬スル部分ヲ申受クルノ必要ヲ認メ候ニ付テ
ハ右ハ何程ニテ御讓渡可相成歟一千八百八十二年
十二月二十八日附追加條約ニ基テ其賣價御通知相
成候様致度候

上海

ニルニル宛

小松通信局長

同 九月廿六日上海來

左ノ通りコンモドーア、ハエンソヨリ回答有之候
日韓間海底線中英社所有ノ分御讓受相成度件、聞
シテハ御未議ニ應シ度クモ該線ノ賣渡ハ中立迄
ノ行為ハ明認シ得ヘクニ付其結果タル弊社ノ致命
ニ関スル所ニ有之候
鬼ニ角本件、付テハ丁林政府ハ申請スル所可有之
候去リ乍ラ我政府既ニ中立ヲ宣言ス即チ西支戰國
何レノ一方ノ條規ヲモ破アルハ我政府ノ嚴禁スル
所ニ有之候
現ニ弊社ハ該海底線ノ運用ニ関シ何等手ヲ下シ居
ラザルノミナラズ亦計算調査上電報ノ調査ヲモ執

行セズ貴國ハ既ニ該線ニ関シ十分ノ權利ヲ掌握シ
テ之ヲ管理セラル然レハ買収ノ件ハ當分御延期相
成候様致度何トナレハ貴國政府ハ本件買収ニ付何
等利益ヲ獲得セラルル所トナルヘク却テ從未貴國
政府ノ為人最モ重大ノ任務ヲ盡シ且ツ現ニ盡シツ
ツアル一商社ノ存立ヲ危アセントスルモノニ可有
之候
平和回復ノ上ハ本件ニ関シ喜デ御商議ニ預ルヘク

上海
小松通信局長宛
ベルネル

同 十月四日來送

左ノ通コシモド一ア、ス正シクシ氏ハ御傳達相成度候

貴電報拜誦釜山線通信(軍用通信以外)ノ混滞ヲ減スルハ刻下ノ必要ニ有之現在ノ單線ニテハ如何トモ難致去リ迎貴社ニ於テ之ヲ復線工事ヲ執行スルハ不可能ノ次第ナルヲ以テ免許狀ノ定ムル方法ニ據リ該線ヲ當局ニ於テ買収スルコト差當リ必要ニ處スル最良ノ方法ト存候我政府ノ全然管掌内ニ在ル線路ヲ我政府ニ讓渡サルルニ何人モ之ヲ中立違反ノ行為ト見做ス者ナカルヘク思考致候處貴社ニ於テハ其讓渡ヲ以テ中立違反ノ行為ナルカノ如ク認メラレ候事當主管廳ノ遺憾トスル所ニ有之候當主管廳ハ毫モ貴社ノ存立ヲ危フヒントスルカ如

キ意志無之候サレド今日ノ狀態ヲ其儘ニ放任シ置クハ到底事情ノ許サ、ル所ニ有之候條單線ヲ以テ處理シ得サル通信ノ取扱ニ關シテハ當局ニ於テ必要ナル手段ヲ取ラザルヲ得サルヘシト存候尚貴社ハ平和克復ノ後ニ於テ何程ニテ該線ヲ御讓渡可相成哉御通報相煩度候

上海 ベルネル宛 小松通信局長

同 十月十日上海幣

左ノ通コシモド一ア、ス正シクシ氏ヨリ回答有之候本件ニ付蒙ニ申進メタル義ハ政治家法律家實業家及軍人ヲ以テ組織スル弊社重役會ノ一致ナル意見

有之候、
貴下ノ聲明セラレタル必要及之ヨリ生スルコトア
ルヘキ結果ハ弊社ノ能ク了解スル所ニ有之候乍去
貴主管廳ニ於テ已ラ得ス執ラレハキ何等カノ手段
ニ依リシテ千八百八十二年ノ免許状ニ依ル弊社ノ權利
ヲ侵害セラレルコトアルモ夫ハ唯一時的ノモノト
相心得寧ハ此際何等御協約等致置カサル様致度候
談海底線ノ賣價ヲ只今定ムルハ不可能ニ有之候便
ニ其賣價タル商議ノ時期如何ニ因ラサルヲ得ナル
義ニ有之又其商議ニ付テハ免許状中、豫期シタ
ル他ノ電線接続ニ関係ヲ及ホスヤモ難計致ト存候
故、有之候

心
不
ル

東京

通信局長宛

同 十月廿一日發送

左ノ通コンモドニア、人エソソシ氏ハ御傳達相成度
候、
十日付貴電拝誦、貴下ニ於テハ十分我提議ノ必要及
其之ヨリ生スルコトアルヘキ結果ヲモ御了解相成
居ルモ先ツ一時的行為トシテ當主管廳ニ必要ノ手
段ヲ委スルヲ便宜トセラレルル趣諒承致候、
賣價ノ算出方ハ千八百八十二年附屬條約中ニ略々
規定セラレアルコトヲ御注意迄ニ申進候

小松通信局長

上海 ベルネル宛

同 十月廿九日上海発

左ノ通コンモドリア大工ノシヨリ電報有之候
二十一日付貴電報并誦候処御未示ノ趣旨ハ暴ニ批
者ヨリ申込ノタル趣旨ニ符合セズ候就テハ弊社重
役専務ノ書記タル拙者ノ子息カイ大工ノシ義令
般渡清ノ途ニ上リ候ニ付御希望ニ依リテハ彼ヲ日
未經由ニテ帰國セシメ御質問ニ對シ詳細陳述説明
可為致候

上海

ベルネル

東京 小松通信局長宛

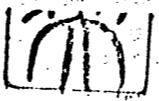
同 十一月十二日發送

左ノ通コンモドリア大工ノシ氏ハ傳達相成度候
廿九日付電報并誦目下談事件ニ関シテハ更ニ陳述
又ハ説明ヲ請フノ必要ヲ認メズ候
御賢息御歸國ノ際自然當地ニ御立寄相成候ハ、歡
迎可致候

上海

ベルネル宛

小松通信局長

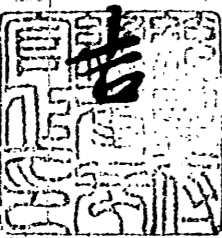


秘送第七五

本年一月六日付送第一號
ヲ以テ御回
付相成候別紙通信大臣回付奉玉
銀道経管ニ関スル書類用紙、付
御素示ニ從ヒ爰ニ及申込候間
御査取有之度候也

明治三十九年一月十日

統監府事務長官鶴田定



内閣書記官長石渡敏一殿